

国際研究集会派遣報告



2025年度 国際研究集会派遣会員報告書

国際発表への挑戦

派遣集会：第33回中華医学会影像技術学会

開催場所：上海，中国

開催期間：2025年10月16日～19日

派遣員 吉田宗一郎 東京大学医学部附属病院放射線部

発表の概要

私は，“Evaluation of Image Quality in Identical-Model Flat-Panel Detectors with Different Durations of Use”というタイトルで発表した。同型式 flat-panel detector (FPD) における使用年数による画質への影響について、調査および比較検討を行った。10年の使用年数差のある同型式 FPD2枚に対して、CDRAD ファントムとアクリル板を使用し、撮影条件を変更しながら撮影を行い、画質評価指標である IQF_{inv} 、Contrast および SD を算出および比較した。結果として使用期間の長い FPD は、わずかに低コントラスト分解能が低下していることが示唆されたが、 IQF_{inv} では有意差を認めなかったため全体的な画質としては同等であることが示唆された。現在は、本発表内容の論文化に向けて、執筆準備中である。

参加国際集会について

第33回中華医学会影像技術学会 (Chinese Society of Imaging Technology: CSIT 2025) は、2025年10月16日から19日の4日間、中国上海市浦東新区の張江科学会堂で開催された。CSIT 2025では、CTやMRI、骨密度検査や乳房撮影といったX線撮影といった分野はもちろんのこと、AIや画像処理などの幅広い診療放射線技師がかかわる分野のセッションが設定されており、JSRTと近いテーマや分野で発表および議論が行われていた。CTとMRIのセッションが多く、全体の半数近くを占める数があった点が特徴的だと感じた。

CSITでは英語のセッションが設けられているが、基

本的には中国語発表、かつ、中国語スライドであった。中国語の文字は日本語の漢字に通ずるところがあるため、スライドは多少理解できることもあったが、母国語が英語でない学会では、英語によるスライドと発表であるほうが研究内容が理解しやすいと感じた。

私が発表を行ったセッションでは、香港やタイ、マカオの診療放射線技師が発表を行っていた。どの発表も大変興味深かったが、特に私が興味を持ったのは、香港の発表者による DRLs に関する報告であった。

学会への還元

今回の海外学会参加と英語での口頭発表の経験を活かして、今後国際学会に挑戦したい方へ自身の経験を伝えていければと考えている。私自身初めて国際学会に参加し、英語での口頭発表を行ったわけだが、最初は何から準備すればよいかわからなかった。その後、学会事務局の方々のサポートで準備の道筋が見え、何とか発表までこぎつけることができた。会場では、中国のほかに韓国、香港、マカオ、タイの方々と英語でコミュニケーションをとる機会があり、慣れないながらも国際交流ができ、非常に有意義な時間であったと感じている。私のように初めて国際学会に参加する方に、この報告書が国際学会挑戦の一助になればと願う次第である。私自身も、今回の経験を踏まえて今後も国際学会に挑戦していきたいと考えている。

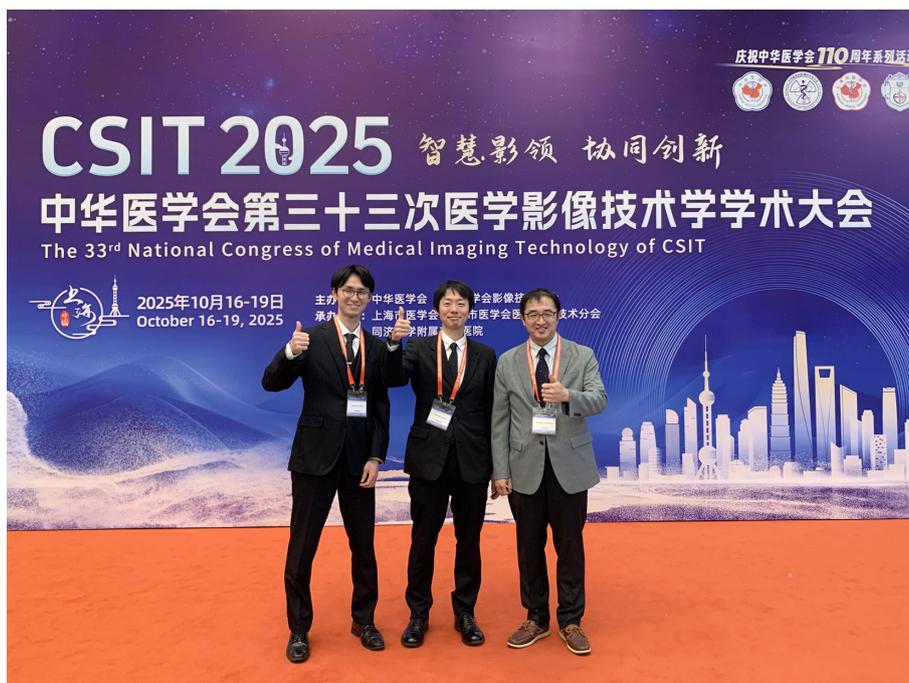


Photo 学会会場での一枚（右から高島弘幸副委員長，今江禄一委員長，筆者）

謝 辞

CSIT 2025 への参加にあたり，派遣会員として選出していただいた石田隆行代表理事，国際戦略委員の皆様
に心より感謝申し上げます。また，現地に同行いただいた東京大学医学部附属病院の今江禄一氏，北海道大

学大学院保健科学研究所の高島弘幸氏，本研究にあたり多くの助言をいただいた東京大学医学部附属病院放射線部の皆様に深く感謝申し上げます。なお，助成金の一部は渡航費用および現地の滞在費に使用いたしました。